

和歌山だよいい

平成20年 10月号
(2008)



柿 (九度山町)

CONTENTS

1. 知事メッセージ………… P1
2. 和歌山県政トピックス… P2～P10
3. お知らせ…………… P11～P12
4. ふるさと歳時記………… P13



秋 桜

「空約束」

日本人が世界で最も尊敬される美点は約束を守ることだと私は思います。そして多言をういませんがこれが日本の経済成長をもたらした要因の一つであると思っています。和歌山県だって、企業が立地したり、観光客が集まるかどうかは、そこにいる人々が約束を守る信頼に足る人々かどうかにかかっていると思います。世のリーダーたる人は特にそうです。選挙の時の公約やマニフェストもそういうものでなければならぬと思います。知事選に出る時、私は空約束だけはすまいと誓いました。それで、夢いっぱいの、かつ詳細なマニフェストなるものを発表して選挙に臨む風潮花ざかりの時代に、5つの政策目標という公約だけで県民の皆さんに訴えました。そして、当選させていただいて以来、一心不乱にその実現に努めています。一方では、本当に実現できるのかなと私などが思うマニフェストを掲げて当選して、次々とその実現を放棄してしまうような人もいます。また、この「空約束」には、選挙で訴えたことと、その後の具体的政策の方向が違ふという場合もあります。例えば、地方を大事にすると訴えたのなら、その後も地方切り捨てにつながることをしないでほしい。企業を誘致して経済力をつけますというのなら、反対している住民の人にも説得していかねばなりません。「空約束」は、ウソツキであると思います。「ウソの一つもつけんのか」という意見は間違っていると思います。誠実にコツコツ努力すること、約束したことは、必死で守るように全知全能を傾けること、そして、そのためにいつも一歩でも前へ出ること、そういうことを通じて地域の活力も少しずつとり返せるのではないかと信じています。私の見果てぬ夢は、公約やマニフェストが守れなかったら当選を無効とするという制度ができることです。

和歌山県知事

仁坂吉伸



「チャレンジ！お
おいた国体」の県
選手団結団壮行式
において、団長と
して、約 100 名の
代表選手を前に挨拶する仁坂知事。

男女総合 41 位。
前年 45 位を上回
る成績となりました。

今月の和歌山県政トピックス

＊ 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

● 和歌山県・ガリシア州（スペイン）国際共同プロモーション事業実施

・仁坂知事、大沢県議会議長、泉県議会農林水産委員長、県内企業11名、県職員が観光・食品及び産業のトップセールス並びにサンティアゴへの道・熊野古道姉妹提携10周年共同プロモーション参加のために下記のとおりスペインを訪問しました。

訪問期間：平成20年9月28日（日）～10月5日（日）

訪問都市：マドリッド市、ガリシア州（サンティアゴ・デ・コンポステーラ市：SCQ）

メンバー：仁坂知事、大沢県議会議長、泉農林水産委員長、県内企業11名、県職員

・知事は、「和歌山県、ガリシア州の国際共同プロモーションで、スペインをはじめヨーロッパでプロモーションを掛けるのは初めてだと思うので、そういう意味ではきっかけが出来た。もっと意味のあるものにするためには、しつこくフォローアップしなければならない。」と振り返りました。

★訪問団の活動（ページ数の制限があるため概要のみをお伝えします）

●知事が観光関係トップセールス（9月29日、30日 マドリッド市）

訪問先等 近鉄インターナショナル・エクスプレス、ビアヘ・エル・コルテ・イングレス、ディメンシオネス、クオーニ、HIS、JTB

・スペインの旅行エージェントも高野・熊野に関心を示していました。

・別行動となった食品商工関係も商談会を実施。情報収集や販路拡大促進に努めました。



●在スペイン日本国大使公邸でのセールスプロモーション

・52名（現地関連団体・旅行業者・流通関係・メディアなど）の招待客訪問者を前に知事が、プレゼンテーションを行いました。

・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」風光明媚な自然景観、奥深い歴史・文化、心地良い温泉など和歌山県の観光名所を紹介し、並びに和歌山の誇る農産加工品、工業製品など、産品を紹介し対スペイン

輸出の可能性をさぐりました。

・その後行われたレセプションでは、県産品をふんだんに使った料理と飲料で招待者に和歌山の味を知ってもらいました。

・スペインでは、大使公邸を使って、プロモーションを行ったのは和歌山県が最初のことです。

●ガリシア州表敬訪問関係

・ガリシア州では、エミリオ・ペレス・トゥリーニョ州首相、フリオ・セサル・フェルナデス・マト州国際長官、フェルナンド・ブランコ・アルバレス州革新経済大臣を表敬訪問しました。世界に2つしかない世界遺産の道についての共通認識を深め、両政府が世界中に理解され実際に体験してもらえるよう協力し成果を上げていくことを確認しました。

・州首相からは、巡礼道以外の分野での交流拡大の提案をいただいたほか、来年5周年を迎える本県の世界遺産登録記念事業に是非出席したいとの返事をいただきました。

●共同プロモーション関係

・昨年9月、州革新産業大臣来県を機に、姉妹道となる「サンティアゴの道」「熊野古道」の活用について、対外的な認知度向上、巡礼を主にした誘客数増加を目的とした共同事業の検討に入りました。

・今年は姉妹道提携10周年になる記念の年です。特に両政府は、周年事業としても成立する内容になるように工夫、検討を重ねました。最終的には、文化的・歴史的価値観の向上、知的好奇心の喚起、ブランド力の強化を図ることで、オンリーワンの目的地として集客につなげるために、「写真」をツールにした共同写真展を軸にしたプロモーションを開催することになりました。

・展示作品は、日本人写真家がサンティアゴの道を、スペイン人写真家が熊野古道を撮影し、2つの道が共通した普遍の価値観を持つことをアピールしています。

・会場は、田辺市（9月）、パリ（9月）、サンティアゴ・デ・コンポステーラ（10月）、東京（12～来年3月）の4都市で、特にパリ、東京は首都圏からの誘客対策として力を入れています。

・友好提携月での開催となったサンティアゴ・デ・コンポステーラ大学付属教会の会場では、10月2日、オープニングセレモニーが行われました。

・知事は、両州県が互いに認めた共通の価値を持つ世界遺産の道を、世界中に認識、理解され、実際に体験してもらうという目的を協力しながら確実に成果を上げていきたいと思いますとの趣旨であいさつをしました。

・来年は、熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録5周年を、ガリシア州では翌2010年に「聖ヤコブの年」を迎え、それぞれの聖地で記念事業が予定されています。2つの道の協力関係はこれからも続いて行きます。

●日本スペインシンポジウム

・このシンポジウムは、1994年、天皇皇后両陛下がスペインをご訪問された際、首席随員を務めた中山元外務大臣が、ご訪問の成果を生かし、両国間でさらに幅広い関係を構築すべく「日西21世紀委員会」の設立を提案したことが始まりとなっています。その後、両国外務省が主体となり1997年から毎年、持ち回りで開催されています。

・今回は、ちょうど訪問したサンティアゴ・デ・コンポステーラで開催されたシンポジウムに、知事が招かれ、ゲストスピーチを行い、熊野古道のPRをしてきました。スピーチ内容は少し長いのですが、全文を掲載させていただきます。

～ 熊野古道とサンティアゴ巡礼道の関係についての説明 全文 ～

アントニオ・ガリーガス、中山太郎両座長、アンヘル・ロサーダ外務省外交長官、フーリオ・セサル・フェルナンデス ガリシア州国際長官、そして、スペイン側、及び、日本から参加の皆様、ladies, and gentlemen。今回で11回目を数える日本スペインシンポジウムに参加をさせていただき、大変幸せです。

西と東の古い文化と強い経済力を持つ両国の要人がこうして集い、両国にとって共通に重要な問題を語り合うこのシンポジウムはすばらしいものがあると思います。

そしてこのシンポジウムの開催地が、このサンティアゴ・デ・コンポステーラというキリスト教世界での巡礼の最高の聖地で行われるということに感動を覚えます。

和歌山県にある熊野古道とサンティアゴ巡礼道は世界で2つしかない道の世界遺産です。10年前、ガリシア州と和歌山県は熊野古道とサンティアゴ巡礼道を姉妹道とする取り決めを結び、その後ずっと様々な協力をしてきました。そして、その姉妹道の協力が10年を迎える今年、10周年を記念して新しい共同プロモーションを行おうと決めたのです。

両者は、熊野古道とサンティアゴ巡礼道の意義を日欧両国のもっと多くの人々に分かってもらおうというプロモーション活動を、和歌山県、パリ、サンティアゴ・デ・コンポステーラ、そして東京で行お

今月の和歌山県トピックス

うとしています。ちょうどこの会場の近くのサンティアゴ・デ・コンポステーラ大学附属教会ギャラリーにおいて「祈りの道サンティアゴ巡礼の道と熊野古道」写真展が開かれています。皆さん、そちらも是非ご覧になって下さい。

サンティアゴ巡礼道と熊野古道は、多くの点で共通点があります。その最大のものは、苦勞して目的地のサンティアゴ・デ・コンポステーラや熊野の三ヶ所の神社に参詣することで、魂の救済が得られるということです。

ずっと昔から人類はつらい生活に立ち向かって懸命に生きてきました。文明が進んだ現在においても、人間は大きなストレスと戦いながら生きています。その時巡礼に出て、苦勞しながら歩き、目的地にたどり着くことで、サンティアゴ・デ・コンポステーラの場合、キリストの神の祝福を受け、日本の場合は熊野の神々の祝福を受けることによって魂の救済を図ってきました。

日本の場合、10世紀頃から日本の最高権力者であり権威者であった上皇（前天皇）をはじめとする多くの貴族の人々はもちろん、非常に数多い庶民に至るまでの人々がかかわるがわる熊野を目指して熊野古道を歩きました。その途中で事故や病気で亡くなった人も数多くいましたが、熊野の人々は、これら巡礼者を助け、彼らの世話をずっとし続けました。多くの悲しくも心温まる話が語り伝えられています。そして、途中で倒れた人も無事巡礼から帰還した人も、彼らの魂は救われたと思います。

熊野の神々は誰にでも寛容な優しい神々です。熊野への参詣は、次の4つの言葉で語られます。

「老若男女を問わず、貴卑を問わず、浄不浄を問わず、そして信不信を問わず」

第1の「老若男女を問わず」は、現在では皆当然と思うでしょう。しかし、キリスト教においても、日本のいくつかの仏教の学派でも、例えば女性の立場が初めから男性と同じであったとは言えないということは事実でしょう。それは、ごく最近のことです。

第2の「貴卑を問わず」もそうでしょう。しかし、熊野の信仰と参詣はすべての人に開かれていました。

第3の「浄不浄を問わず」については、最も深い慈悲の心が感じられます。多くの昔不治の病だと宣告された病人が熊野を目指しました。また、例えば目の見えない人が他人に手を引かれながら、足の不自由な人が今で言う車イスを人に押してもらいながら、1000年も前からずっと熊野古道を歩きました。心の汚れた人々と、人々に差別されてきた人々も、熊野を目指し、救いを求めました。イエスキリストがハンセン病者を治したように、また、マグダラのマリアに祝福を与えたように、熊野の神々は、これらすべての不浄とされていた人々にも参詣を許し、また熊野の人々もそれを助けました。

第4の「信不信を問わず」だけは、私はキリスト教や日本の仏教にもない思想として深い意味をもつ言葉だと思います。熊野の神々を信じない人々に対しても熊野の神々は魂の救済とよみがえり（revival）を与えるというのです。熊野三山の現在の最高責任者の一人が、私に言いました。「誰でも熊野に来て下さって、どんな形でも救って下さい、と心の中で言えばいいのです。神道の作法など守らなくてもいいのです。キリスト教徒は十字を切って自分の神に救いをお願いすればよいのです。それが熊野というところです。」

この地球には争いがあります。宗教の争いも多くあります。しかし、熊野の神々は、どんな宗教を持つ人でも受け入れるという絶対的な寛容性があります。世界の平和、魂の救済が本当に必要とされるこの現在、熊野古道の持つ意味がもっと多くの地球市民に分かっていただければと思います。

そのためには、是非和歌山へ来て下さい。1000年の昔と違い、今や交通手段は格段に進歩しています。日本の関西の玄関口、関西国際空港から車や列車でわずか2－3時間で熊野古道の玄関口に着きます。時間のない人は、車で熊野古道のポイントだけを味わうこともできます。寛容な熊野の神々は、それでもお許し下さるでしょう。そして昔も今も親切で善良な熊野の地元民は、観光客に親切です。そして太平洋でとれた海の幸、紀伊山地の山で採れた珍味、おいしい地元の酒や梅酒、こんこんと湧き出る温泉が旅の疲れを癒してくれるでしょう。緑したたる森の中の道と、透明な川、明るい海も魅力です。

こんなすばらしい熊野古道が、ヨーロッパ人に知られ、世界遺産に登録されたのも、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼道というお姉さんがいたからです。私は、今和歌山県の知事としてこの聖地、サンティアゴ・デ・コンポステーラに立って、皆さんに熊野古道の魅力を語っています。しかし、知事という激職をいつか離れた時、もう一度人生のよみがえり（refreshment）を求めて、サンティアゴ巡礼道を歩いてみたいと思います。

最後に、今回この昼食会にお招き頂きました IGAPE のアルバロ・アルバレス・ブラスケス氏にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

● 仁坂知事が柿のトップセールス ～「刀根早生」の出荷に合わせて安全性をPR

日時：平成20年9月24日（水） 5：10～

場所：大阪市中央卸売市場本場（大阪府大阪市福島区野田）

・本県柿の主力品種である「刀根早生」の出荷が最盛期を迎えるのに合わせて、仁坂知事を先頭に和歌山県議会農林水産委員会委員、JA和歌山県農会長、産地JA組合長らが法被姿でトップセールスを行ないました。



・産地代表として知事は、「和歌山県産柿については、生産履歴を追跡できるシステムと残留農薬の二重検査を実施し、安全なものしか消費者に供給しないという体制が整った」と挨拶しました。

・販売促進用に県職員が作詞作曲した「♪和歌山の柿♪」が紹介され、会場で曲が流されると報道関係者からも関心が寄せられました。

「♪和歌山の柿♪」



*和歌山県インターネット放送局でも配信中です。是非お聞き下さい。

アドレス <http://jp.youtube.com/watch?v=L4IBV1VJICA>

・今年の柿の品質は天候にも恵まれ、糖度が高く、いつも辛口の市場のトップの方々からも絶賛をいただいています。

「和歌山の柿」

柿の全国出荷量約24万5千トンのうち、本県のシェアは21%と全国1位。

また、大阪市中央卸売市場での昨年度占有率も数量ベースで59%と1位。和歌山県産柿の半分以上を占める「刀根早生（とねわせ）」は、食感がしつとりとジューシーで人気。今年の出荷予想量は、2万3千トン。



● 2008北京オリンピック競技大会 上村美揮選手（体操女子団体総合5位入賞）、2008北京パラリンピック競技大会 中村智太郎選手（水泳競技100m平泳ぎ 5位入賞）が県庁を訪問

【上村美揮選手】

・北京オリンピック（8月8日～24日の17日間）において、有田市出身の上村美揮選手（体操）は、体操女子団体の主将を務められるとともに、跳馬において見事な演技を決め、女子団体総合5位に入賞の原動力になりました。

・9月16日に県庁を訪れた上村選手には、オリンピックでの功績を称え仁坂知事から「県スポーツ顕賞」が授与されました。知事は「若いチームを主将として率いるのはすごい」と労いました。



◆「上村 美揮 選手」（有田市出身）
現在、朝日生命体操クラブ所属

【中村智太郎選手】

・北京パラリンピック競技大会において、水泳競技に出場した中村智太郎選手は、男子100m平泳ぎで5位入賞の成績を収められました。

・9月25日に県庁を訪れた中村選手には、パラリンピックでの功績を称え仁坂知事から「県スポーツ顕賞」が授与されました。



○北京パラリンピックの成績

男子100m平泳ぎ

決勝：5位（タイム1分25秒34）

・仁坂知事は「中村選手は先駆者。またチャレンジャーとなって次を目指して下さい」と激励しました。

上村美揮選手、中村智太郎選手には、4年後のロンドンオリンピック・パラリンピックに向け、益々御活躍されますことを心からご期待いたします。

●住友金属工業(株)和歌山製鉄所で新第1高炉の「鰻(こて)入れ式」が挙行

・10月1日に、和歌山製鉄所で建設が進められている新第1高炉（鉄鉱石を還元して銑鉄を製造するための炉。溶鉱炉）の鰻入れ式が行われました。鰻入れ式とは、高炉の耐火煉瓦積みを開始するにあたって、今後の工事の安全と炉の順調な立ち上がりや長寿、安定稼働を祈願する行事です。

・和歌山製鉄所には現在2基の高炉がありますが、うち1基は1982年2月から26年以上連続して稼働している世界一長寿の高炉で、現在もその記録を更新中です。新第1高炉はこの高炉と切り替えられ、来年7月に稼働します。

・さらに、同社では既存高炉の更新として、新第2高炉の建設も計画しており、一連の投資が完了する2012年には、和歌山製鉄所の粗鋼生産量は現在の400万トンから520万トンになります。

・和歌山製鉄所で生産されているシームレスパイプ（継ぎ目無し鋼管）は天然ガスや石油の掘削に使用され、その品質は世界中で高い評価を受けています。こうした設備増強によって生産力がさらに向上し、地域とともに発展されることを期待しています。



鰻入れ式の様子(下妻博住友金属工業(株)会長)



建設中の新第1高炉

●「ふるさと回帰フェア2008 in おおさか」に出展。和歌山での田舎暮らし相談や移住セミナーを実施（アジア太平洋トレードセンター ATC（大阪市））

・和歌山県では「田舎暮らし応援県わかやま」の情報発信を行うために、「ふるさと回帰フェア2008 in おおさか」に出展し、田辺市、日高川町、古座川町とともに自治体相談コーナーを設け、田舎暮らしやふるさと定住センターでの体験研修、市町村での受入体制等について相談を受けました。

・また、和歌山県、奈良県、三重県で構成する紀伊半島振興対策協議会では、Iターン者が充実した田舎暮らしの事例発表を行い、和歌山県の田舎暮らしの魅力、ノウハウを伝えました。

・現在、和歌山県ホームページ上においても、「和歌山県定住情報サイト」を立ち上げ、田舎暮らしを応援しています。



田舎暮らし応援県わかやま



※11月15日（土）～11月16日（日）10：00～17：00に東京「赤坂サカス」にて移住促進を図るためのPRイベント「JOIN LIFE FESTA'08」へ出展します。（ホームページ：<http://www.iju-join.jp/event/>）

● 植芝盛平（うえしば もりへい）翁没後40周年記念事業 第10回国際合気道大会開催（10月5～10月13日）



・合気道の創始者 植芝盛平翁は和歌山県田辺市の出身です。幼い頃から武道に励み、19歳で修行の旅に出て各流の武術遍歴を重ねつつ独自の武術を習得しました。昭和17年にその武術を「合気道」と名付け、国内はもとより世界中にその名を広めました。

・植芝盛平翁の没後40周年にあたる今年、田辺市において国際合気道大会を開催しました。49カ国 600人以上、国内も入れると1500人以上の参加でした。

昭和63年の第5回大会以来20年ぶりの田辺市での開催となりました。大会は4年に1度開催。）

・熊野本宮大社の旧社地・大斎原での奉納演武大会のほか、盛平翁を偲ぶ会や遺墨・遺品パネル展、合気道講習会、国際合気道連盟総会など多彩な行事が行われました。

● アドベンチャーワールド（白浜）生まれのパンダ「良浜（ラウヒン）」が双子の赤ちゃんを出産。日本で生まれたパンダの出産は全国初

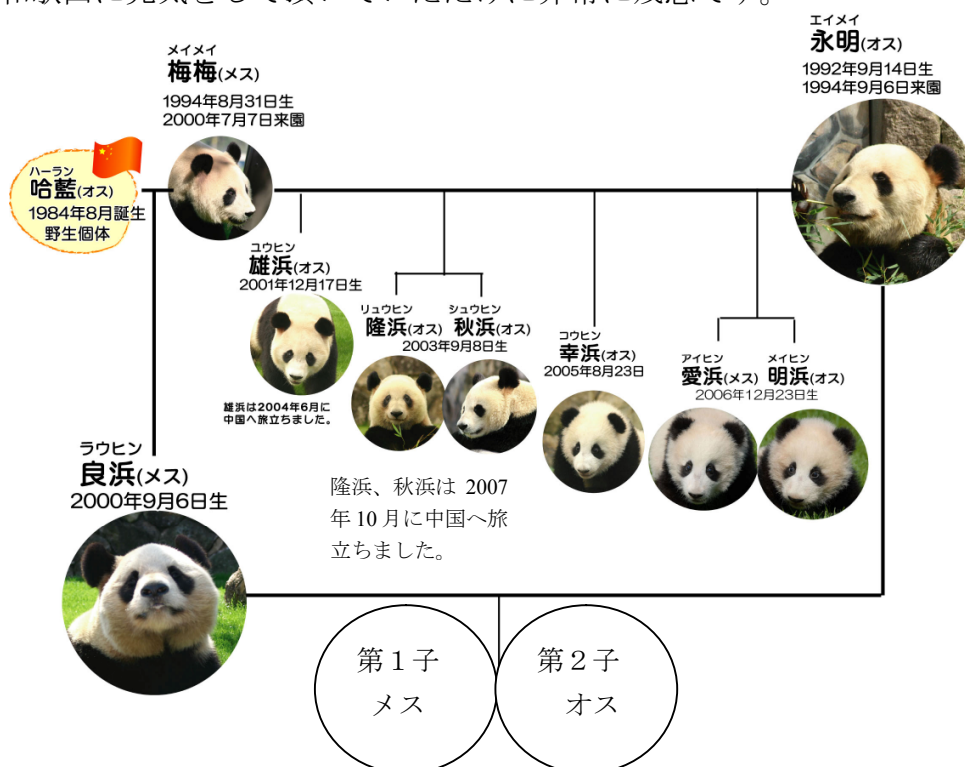
・9月13日にアドベンチャーワールド生まれのパンダ「良浜（ラウヒン）」が双子の赤ちゃんを出産しました。

・日本で生まれ、育てられたパンダが出産するのは全国初です。現在2頭はすくすくと育っており、12月頃には一般公開の予定です。

・白浜は、中国以外では最も多くのパンダが遊んでいる所です。広い芝生の上で走り回っています。

・アドベンチャーワールドでは双子の赤ちゃんの名前を公募しています（詳しくは、アドベンチャーワールドホームページ <http://www.aws-s.com/> をご覧下さい。）

・【訃報】さる10月15日、梅梅（メイメイ）が死亡いたしました。多くの子ども達を産み育て和歌山に元気をして頂いていただけに非常に残念です。



● ふるさと全国県人会まつり2008が開催（仁坂知事もトップセールス）

・9月13日（土）14日（日）の両日、名古屋市の久屋大通公園「もちのき広場」において、「ふるさと全国県人会まつり2008」が開催されました。

・愛知県は県人会を大事にする所で、このおまつりにも支援をしてくれています。全国県人会の代表は現在、和歌山県人会の山口春三会長（ネッツトヨタ東名古屋㈱会長）です。

・その縁で大会オープニングには、仁坂知事が出席し、挨拶やテープカットが行われました。

・今回のまつりでは、東海地区にある県人会が主体となり、各県の伝統芸能や踊り、民謡などを披露するほか、物産品の販売、観光案内などを通して「ふるさと」の温かさ、知恵、魅力をアピールしました。

・和歌山県は、伝統芸能を代表して太地町のくじら太鼓が披露され、物産ブースには、梅干、くじら缶詰（太地町）、はちみつ（那智勝浦町）じゃばら商品（北山村）を県産品として出展しました。

・また、県人会の会員が中心となって、熊野古道など熊野エリアの観光PRが行われ、初日には知事のトップセールスも実施されました。

（来場者は2日間で約10万人）



● 災害ボランティア拠点開設（常設のセンターは全国3番目）

・東南海・南海地震の発生確率が高まる中、災害復旧における災害ボランティアへの期待と、いざという時に備えるネットワークの重要性はますます高まっています。

・このような状況のもと、社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会では、災害時に多くのボランティアが効率的効果的に活動できるよう、和歌山県および関係団体との協働により「和歌山県災害ボランティアセンター」を設置（常設）しました。

・平常時には、県内のボランティア団体のネットワークを構築して、訓練なども行って、東南海・南海地震に備えます。また、災害ボランティアセンターの運営主体となるコーディネーター（人材）を養成します。

・そして、災害時には情報収集や人材の派遣、県外からのボランティアの受け入れなどを行うことにより、県民の安心安全が確保されます。

●「サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会」が経済産業大臣「情報セキュリティ促進部門」受賞

・平成9年に全国で初めてコンピューターネットワークに関連する社会の安全性に係る普及啓発及び研究交流を目的としたシンポジウムを開催し、以降産学官民の連携により毎年開催し、今年で12回目を迎えました。毎回約300名の参加があります。

・シンポジウムでは、コンピューター犯罪対策に関わる治安当局、技術者、企業担当者、法律家の方々が集まり、最近の問題について情報交換や議論を行うなど、情報セキュリティの向上に大きく貢献しています。

・こうした活動が評価され、今回大臣表彰を受賞されました。

【受賞団体の概要】

団体名：サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会

代表者：脇田一郎実行委員長（情報システムコントロール協会大阪支部理事）

構成団体：和歌山県、和歌山県警察本部、和歌山大学、近畿大学生物理工学部

白浜町、特定非営利活動法人情報セキュリティ研究所

情報システムコントロール協会大阪支部

●日本一短い川「ぶつぶつ川」誕生間近（那智勝浦町）

・那智勝浦町^{このしろ}粉白にある「ぶつぶつ川」は、沸々と清水が湧き出る泉がさらさらと流れる小川で、長さは**わずか13.5m**しかありません。

・この「ぶつぶつ川」は2級河川の指定を申請中で、指定されればお墨付きの「日本一短い川」となります。

・水源である泉は飲料水としても利用できるほどの水質で、最近ではこの水を使って「野点（のだて）お茶立て」などのイベントも催されています。

・「ぶつぶつ川」の周辺には、熊野古道大辺路や玉の浦海水浴場、ハマボウの群落地などがあり、地元ではこの日本一短い川が注目され、観光名所の一つになることを期待しています。



【和歌山の日本一（川関連）】

- ・ 日高川（2級河川管理延長 114.745 km）
- ・ 那智大滝（高さ 133m）
- ・ 熊野川（計画高水流量 19,000m³/s）



和歌山の旬のこだわり情報をお届けします

秋本番！和歌山の柿が登場！

柿の産地、紀北かわかみ農協の赤井生産専門委員長にお話を聞きました！

和歌山の柿は早生品種の刀根早生から晩生品種の富有柿までいくつかあるんやけど、9月上旬の刀根早生の出荷から始まって、10月半ば頃には平核無、11月上旬には富有柿というふうに旬の柿が計画的に出荷されるんや。

柿は気温が下がらないと色付かないと言われてるが、この辺りでは「高野おろし」と呼ばれるありがたい味方があってな、高野山から吹き下ろす冷たい風が一足早く秋を運んできてくれるんよ。

出荷時期にあわせて色もよし、もちろん味もよしの和歌山の柿を皆さんたくさん食べて下さいね。



日本一の柿産地、和歌山県！

平成19年産和歌山県の柿の収穫量は、52,400 tで全国1位（農林水産統計）。主な生産地は、伊都地域を中心とする紀ノ川流域や紀美野町です（下図参照）。

伊都地域の柿の園地では、結実している枝に竹などで副木をしている様子がよく見られます（写真）。これは、枝の皮を剥くことにより果実への養分の移行を集中させ、早期着色・採果するために行っています。

（平成19年産柿の収穫量 単位:t）

順位	1	2	3	4	5
柿 収穫量	和歌山県 52,400	奈良県 28,100	福岡県 20,400	岐阜県 14,800	愛知県 12,700



（固定して枝折れを防止）

J A紀北かわかみでは、ブランド柿の「腕自慢」の生産に取り組んでいます。

「腕自慢」には刀根早生と富有柿があり、除草剤使用禁止や出荷園地の登録制など、厳しい栽培管理体制がとられています。しかも着色や等階級などの品質基準をクリアしないと出荷できないこととなっています。

今年度は17件の生産者が「腕自慢」の生産に取り組んでおり、柿の販売拡大の起爆剤として注目されています。



柿の栄養にも注目を！

「柿が赤くなれば医者が青くなる」と言われるほど、柿は栄養的にも優れた果物です。和歌山の柿を広く研究されている和歌山大学の細谷圭助・教授に聞いてきました。

柿にはカロテノイド、ビタミンC、タンニンなど抗酸化成分が多く含まれ、動脈硬化や老化予防、その他生活習慣病予防が期待されます。和歌山に多い渋柿を1個食べると、ビタミンCの1日の摂取量を満たすことができ、食物繊維の半分近くを摂取することができます。干柿はさらに成分が濃くなっています。細谷教授からのメッセージは、「柿は、人の体にとって大切な成分が多いことをもっと知って下さいね！」

ただいま、出来たて！柿スイーツ

食欲の秋、おなかも心も満たしてくれる柿のケーキを見つけました。



●柿のパウンドケーキ

あんぽ柿が入って中はしっとり。お店は↓

http://west-coast.blog.ocn.ne.jp/little_kitchen



●柿のたると

生の柿をたっぷり使ったジューシーなタルト。

お店は↓

<http://www.isaki.jp/kaki/>

香港でも和歌山の柿は好評！！

9月10～12日に香港で開催された国際果実・野菜マーケティング専門見本市「アジアフルーツロジスティクス2008」に和歌山県農水産物・加工食品輸出促進協議会が出展し、本県輸出先の最大のターゲットのひとつである香港で、和歌山の柿、柿加工品（あんぽ柿）、みかんの展示・広報活動を行いました。

和歌山の柿とあんぽ柿の試食の結果、外観・食味とも大変好評で、海外への販路拡大について注目されます。



和歌山の柿は香港でも大人気！

柿の産地へ遊びにおいで！

和歌山県かつらぎ町の四郷地区^{しごう}は、お正月のおめでたい縁起物として欠かせない串柿の生産が盛んに行われています。秋には農家の軒先や庭先で串柿が天日乾燥されている風景が見られます。串柿を広く知ってもらおうと恒例の「四郷串柿まつり」が11月23日に四郷小学校を主に開催されます。

また紀美野町でも同日、紀美野町文化センターにおいて「柿まつり」が開催されます。柿にちなんだイベントもたくさん！ぜひぜひ来て下さい。

四郷串柿まつり → <http://www.town.katsuragi.wakayama.jp/K/es-11.htm>

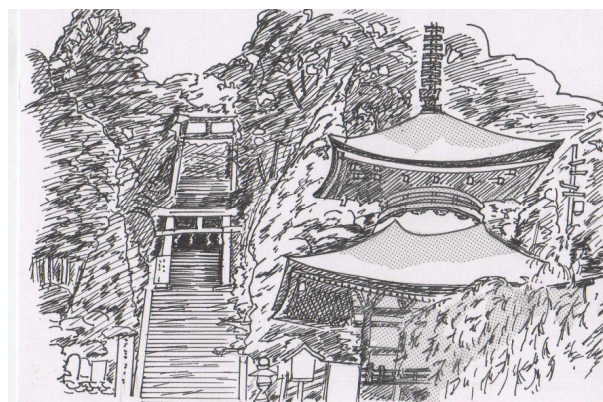


～女人高野「慈尊院」・町石道・真田昌幸、幸村父子ゆかりの地 九度山町 ～

慈尊院

弘法大師の母公廟（霊を祀る所）で女人高野と呼ばれ信仰されていました。（835 年大師が建立）

大師の母は、讃岐（香川県）から大師に会いに来ましたが、女人禁制の高野山に入れず、麓の高野政所（山上の庶務などを行う所）で暮らすことに。その母のために大師は月に九度、山を下り、会いに来たことから「九度山」の地名になったといわれています。当初の慈尊院はもっと北に南門があり、大きかったのですが、火災や紀の川の氾濫にあい、1541 年に現在地に移されました。



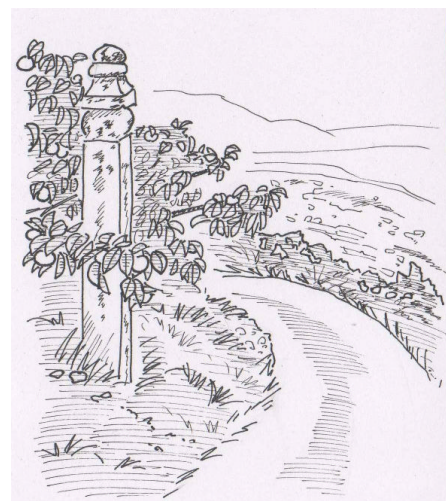
有吉佐和子さんの小説「紀ノ川」にも登場。本尊の弥勒菩薩は、平安初期の代表的な仏像で国宝に指定されています。（普段は見る事が出来ません）

南部の石段の上には丹生官省符神社があり、付近には高野紙の紙すき体験が出来る紙遊苑もあります。

町石道

慈尊院から高野への道に、人々が迷わないように 1 町（約 109m）ごとに立てられた道標。

もとは弘法大師が立てたもので木製でしたが、朽ちてしまったので、鎌倉時代に石で作られました。1 町石から 180 町石まであります。九度山町の雨引山にある 163 町石の所からの景色は特に素晴らしいです。



真田庵（真田昌幸・幸村父子ゆかりの地）

真田昌幸は信濃国上田城主で、武田氏が亡んでからは徳川氏に属しましたが、家康と対立、関ヶ原の戦いで幸村とともに西軍に味方して敗れ、父子は高野山に流罪となり、その冬に九度山に移りました。

九度山で、晴耕雨読して敵を欺き、家臣に真田紐の行商をさせ諸国の情報を集めるとともに、武術の鍛錬に余念がありませんでした。14 年間の閑居の後、昌幸は亡くなりましたが、幸村は大坂夏の陣で奮戦し壮烈な最後をとげました。

真田庵の境内には、与謝蕪村が真田を詠んだ句碑があります。

九度山町ホームページ <http://www.town.kudoyama.wakayama.jp/>

～編集後記～

【「おおいた国体」における本県選手の成績報告】

読者の皆様もご存じのように、平成27年に第70回記念国体が本県で開催されます。

県では来るべき「和歌山国体」での「男女総合優勝」に向けて、県民や県外在住県人会の皆様方の期待に応えられるよう、競技力の向上に努めているところでございます。

10月27日から16日間開催されました「おおいた国体」の本県選手団の健闘をご紹介します。

今回、本県選手団の参加人数が鳥取県に次いで全国で2番目に少ない中で、入賞が17競技、28種別、47種目となりました。

中でも、フェンシング成年女子フルーレ、自転車成年男子1kmタイムトライアル、陸上競技五千メートル競歩、ボート少年女子シングルスカル、弓道少年女子近的では、それぞれ優勝を果たしました。

男女総合成績は41位、女子総合成績は32位で、いずれも前年度（男女45位、女子36位）を上回る成績となり、着実に力をつけてきましたが、本県開催までの7年間で相当スピードアップして競技力を向上しなければならない状況です。

どうか皆様方のご支援をお願いします。

また、「ふるさと和歌山応援寄附」の活用目的の1つとして、国体開催のための施設整備を予定しておりますので、何とぞふるさと寄附にご協力のほど宜しくお願い致します。

ふるさと和歌山応援寄附 <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

知事室秘書課長 鈴木敏彦

★「和歌山だより」Web版は和歌山県ホームページでご覧頂けます。Web版ならではの美しい画面をお楽しみ下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等をお願いします。）

■FAX 073-422-4032

■ E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ <http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」
の発行以外の目的には、使用いたしません。



平成20年（2008年）10月 NO.7

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022